

伊予国 いて

熊野山 虚空蔵院 石手寺

〒790-0852 松山市石手2-9-21 電話089-977-0870

春ですよ

春は花粉が飛び、花粉症の方は目と鼻が辛い季節ですね。僕は少しムズムズします…余談にはなりますが、半導体不足のため、薬の生産が追いついてない状態が続いていると聞きました。

さて春は出会いと別れの季節でもありません。私の長男は保育園を卒業し、小学生にステップアップします。最近ではひらがなを書く特訓をしていますが、その中でも長男は「そ」と「ぬ」が苦手であり、「どう書いたら良いの?」と聞いてきます。それがとても愛くるしいんです。これからは新たな環境に適応して、学校が楽しい場所だと思って欲しいと思うのが親心です。

長男 みちあき作



私事ですが、健康が気になる年頃になったので、最近友人のすすめでアップルウォッチを買いました。その機能の中にヘルスケアというアプリがあります。「消費カロリー、運動時間」を確認できる機能があり、毎日どれだけ歩き動いたか教えてくれます。また一日の目標消費カロリーを設定でき、私は毎日三〇〇キロカロリーを消費するようにしています。今は花の咲きかわる季節でもあり、散歩がてら一時間程歩くと良い運動になって、カロリー消費もできる上、目と心の保養にもつながるので、とてもありがたいです。



歩いていると気が付くこともあります。信号のない横断歩道で、歩行者がいるにもかかわらず、車が停まる事無く、通り過ぎてしまうことです。注意をしないと、あわや大惨事となりますので、横断歩道で歩行者がいれば車は止まりましょう。

最後に、皆さまも健康のため、なにか気にかけて行動されていることはありますか? 無い方はこれを機会に、なにかに挑戦して欲しいなあと 생각합니다。私は、アップルウォッチを購入してから、欠かさず目標を達成している事を自慢したいです(笑) (文責 洋澄)

三重塔

石手寺の象徴である三重塔は、寺伝によると、創建は嘉元四年二月（西紀一三〇六）、鎌倉時代に創られ、幾度の修復事業を行い今日に至る。

鎌倉時代の三重塔は現存するもので全国に八つしかなく、奈良県に三つ、滋賀県に二つ、京都府、福井県に各一つ。加えて石手寺の塔になる。石手寺の塔は形姿が雄麗で安定堅固の要素を多分に持ち、全体と部分との均衡が美しくとれているといわれている。鎌倉期建築の三重塔の中では極めて優れた塔である。

造塔の目的は仏陀の遺物や仏教の経文等を奉安することである。他にも死者、生存者の徳を標識する為に、舍利・牙・髪等を用いて埋め、その上に金石土木を用いて建立されている。その姿は当時の人々をも驚かせたと伝えられている。

今までの修復の歴史を遡ると、

最初の大修理は永正十一年（西紀一五一四）で



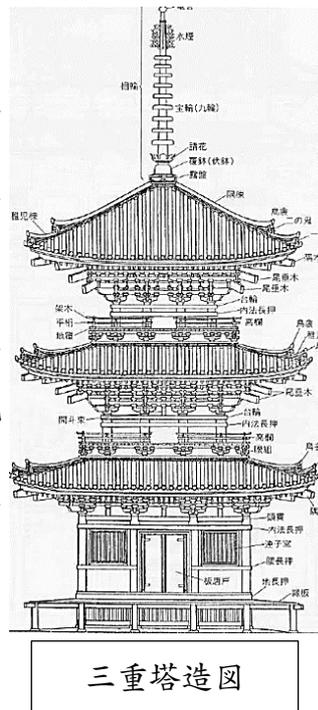
ある。文保年代建築ということを考え、当時で建立から二百年が経過している。

この修理では、建物を解体して組み直し、初層柱を数本取替え、二・三重の柱、その他重要な部材を新補した。それまでの主要材は松材であったが、檜や樟等の素材を新たに使い、屋根瓦もその大半新補したという。材料は相応新調したが、形式や手法については、あくまで以前のすがたを保持することに努めた。例えば初層柱の、腐損は著しかったという。しかし、柱には貴重な絵画装飾が残っていたこともあり、柱をそのまま取り替えることはせず、旧柱の外周だけを剥ぎ取って、新たな柱にこれを貼りつけた。その手際などは古式を尊重するものとして極めて鮮やかなものであったという。

元和七年（西紀一六二一）には永正の大修理から約百年を過ぎて、屋根が修繕期になったこともあり再びの修理がとり行われた。石手寺の中興僧と云われた法印実雄が修理の指示をしたという。この時代は寺全体が復興に専心された時代と示されている。

寛延二年（西紀一七四九）には軒以上が解体された。化粧檼、裏板若干、

小屋材、屋根瓦は大半が取替えられ、九輪の修理、絵画の補修がなされた、この時代は経費が充分ではなかったため、補加材料の質や加工の程度が多少粗悪であったという。



三重塔造図

更に昭和十一年（一九三六）に到ると腐朽顔が極度に達していたので、創建以来最も大規模な修復事業がおこなわれたという。

その模様を略述すると、修理に先んじて傾斜損壊した建物現状が詳細に調査実測された。それから建物の全部を分離解体し、解体中にはその各部の写真を撮映された。そして、元の材料が再用可と否とに厳密に区別された。再建にあたっては建物測図を原本とした修理の根本方針を確立したのであった。

組立の際には、手法を当初のものに倣い、あくまでも古制を尊重した。幸い各年代の修理がそれぞれ巧妙に古式を保持して来いたので、比較的現状変更の部分が少なかったと云われている。

この昭和の解体修理には十四ヶ月を要し

たが、最も苦心したとされているのは、塔内壁の絵画装飾の処理とされている。極彩色は薄く見えにくく、またその膠着力は極めて弱いとされていたため、剥落防止法を施した上で、消えているところは筆痕を辿って復元したと示されている。なお、横の写真にはなるが、正面に示されてある曼荼羅図は現存するものとしては日本最古のものといわれている。



正面
胎藏界中台八葉院

さて、これから令和の大修理を控えているが、重要文化財なので調査に時間はかかり、早くして令和七年度に着工されると云われている。現在資材が不足している事もあり、もう少し遅れてしまうかもしれない。然るにそれがいつにならうと修復過程を見ることは、これまでの幾度の修復工事の歴史を辿れることでもあり、それはまた一つの楽しみでもある。

*参考資料

北川淳一郎『熊野山石手寺』

石手寺、1962年

(文責 洋澄)

研修会

藤井俊良です。この度、二月二十四日から三月九日まで、十五日間にわたり特別専修所第二期の研修を受講しましたので、ご報告いたします。

真言宗豊山派の僧侶になるためには、得度(とくど)、加行(けぎょう)、灌頂(かんじょう)を経る必要があります。その後、住職としての資格を得るためには複数の途が存在しますが、私は特別専修所を選択しました。理由としては、夏と冬の年二回、合計三十日間、奈良県の本山長谷寺で過ごし、筆記および面接試験により資格取得が可能な点が、私のように迅速な取得を望む者には最適だったからです。

この研修では、僧侶としての所作を身につける厳しい加行とは異なり、より実践的な学びがありました。仏教では、事相(じそう)と教相(きょうそう)が重要とされており、それぞれ異なる側面から理解を深めます。

まず、事相では仏教の儀式や作法を教わります。始めに、経を唱える際に必要な聲明(しようみやう)(仏教音楽)、御詠歌(ごえいか)(仏教詩歌)、次に塔婆などに書く悉曇(しつたん

(梵字学習)などを教わりました。

教相では、大学教授から仏教の教えや理論、真言宗の歴史を教わり、理解を深めました。短い間でしたが、仏教の本質が凝縮されており、充実した時間を過ごすことができました。

研修会の受講者は主にお寺の家庭で育った方が多い中、私は在家(一般家庭)出身なので、連夜残つて聲明の練習に没頭しました。その中で時には悔しい思いや、情けなさを感じることもありましたが、仲間や講師の方々の助けもあり、納得のいく成果を得ることができました。

今回の研修を通じて、私自身が仏教を護り続ける歴史の一部であると感ずるようになりました。その歴史を未来へ継ぐため、多くの課題が明確にもなりました。これらの課題に対して取り組み、一僧侶として皆様のお役に立てるよう、一層の努力をして参りたいと思います。

最後に、教師資格を得るための最終試験が今月末に控えています。引き続き、頑張ります。

(文責 俊良)



行事案内

毎月20日 金剛講

3月20日(水)	おはつか(金剛講)	10:00~
4月8日(月)	花まつり	10:00~
4月19~20日(金~土)	高野山参り	6:30~
4月20日(土)	おはつか(金剛講) 正御影供	10:00~
5月20日(月)	おはつか(金剛講) 旧花まつり	10:00~
5月28日(火)	四国遍路88ヶ所 参拝(88番~84番)	6:30~
6月15日(土)	降誕会	10:00~
6月19日(水)	四国遍路88ヶ所 参拝(83番~79番)	6:30~
6月20日(木)	おはつか(金剛講)	10:00~

石手寺四国遍路88ヶ所 巡拝団

☆参加費用 お一人様 15,000円~19,000円(昼飯・旅行保険・交通費タクシー等含む)

☆途中参加可能 お問い合わせ・お申込みは

〒790-0852 松山市石手2丁目9-21 石手寺 電話(089-977-0870)

又は、信徒会会長 乗松 豊一 電話(089-982-6717)



園児募集

石手幼稚園

少人数制カリキュラム

金剛講員募集

お弁当・御札・新聞など配布します
特許 バッジ・駐車料無料・宝物館
灌頂洞窟・鐘撞き・お砂撫で**無料**

年会費 千円